需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

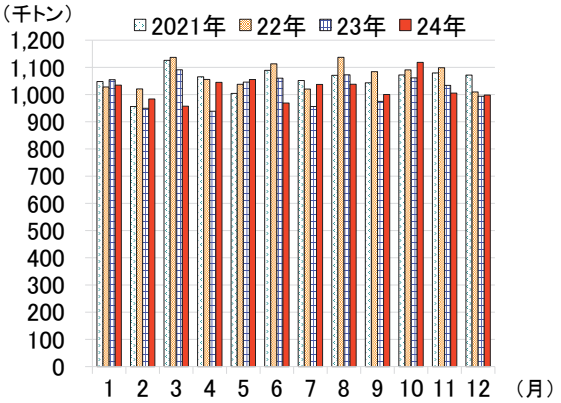
米　国

24年11月の牛肉輸出量は前年同月比10.5%増、韓国向けがけん引

24年12月の牛肉生産量は前年同月比0.5%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年12月の牛と畜頭数は254万2000頭（前年同月比2.0%減）とわずかに減少した。一方、同月の１頭当たり枝肉重量は395.1キログラム（同2.6%増）とわずかに増加した。この結果、同月の牛肉生産量は99万8000トン（同0.5%増）、24年の累計（１～12月）では1224万2000トン（前年比0.1%増）となった（図１）。

図１　牛肉生産量の推移



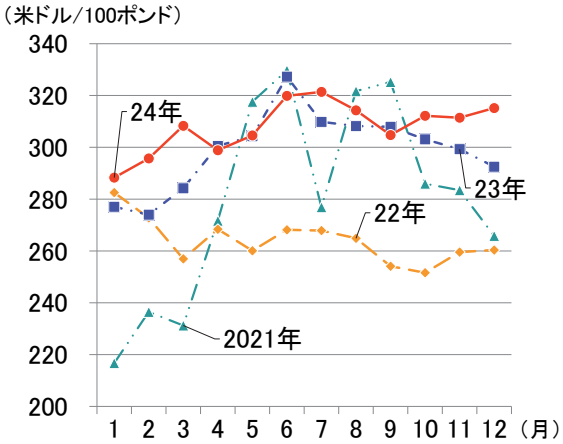
資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

24年12月の牛肉卸売価格は前年同月比7.7%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年12月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー(注1)）は、100ポンド当たり315.16米ドル（１キログラム当たり1080円：1米ドル＝155.43円(注2)、同7.7%高）とかなりの程度上回った（図２）。同価格は、牛群縮小に加えて、堅調に推移する国内需要(注3)により高止まりで推移している。また、同月の肥育牛価格は、同194.63米ドル（同667円、同13.5%高）となった。

（注１）各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。
（注３）USDAによると、米国における24年の１人当たり牛肉消費量は27キログラム（前年比2.6%増）とやや増加が見込まれている。

図２　牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注１：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
注２：チョイス級、600～900ポンド。

24年11月の牛肉輸出量は前年同月比10.5%増

USDA/ERSによると、2024年11月の牛肉輸出量は11万4814トン（前年同月比10.5%増）とかなりの程度増加したが、24年１～11月の累計では124万4878トン（前年同期比1.5%減）とわずかに減少し、低水準であった前年の水準を引き続き下回っている（表）。同年11月の輸出量を輸出先別に見ると、韓国向けは10月下旬の豪州産牛肉へのセーフガード発動に伴う代替需要などから２万6569トン（前年同月比21.2%増）と大幅に増加し、中国向けは１万7815トン（同6.8%増）とかなりの程度増加した。日本向けは円安の影響などにより２万2379トン（同0.6%減）とわずかに減少した。

24年の牛肉輸出量についてUSDAは、アジア向けが予測よりも不調にならなかったことから、前月予測から１万6000トン上方修正の135万9000トン（前年比1.4%減）と見込んでいる。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	輸出割合	24年（１～11月）	前年同期比（増減率）
韓国	21,918	26,569	21.2%	23.1%	258,217	▲6.5%
日本	22,517	22,379	▲0.6%	19.5%	268,679	▲0.1%
中国	16,685	17,815	6.8%	15.5%	196,349	▲6.8%
メキシコ	12,064	12,358	2.4%	10.8%	141,020	9.1%
カナダ	9,089	9,055	▲0.4%	7.9%	105,019	▲6.7%
台湾	5,104	7,182	40.7%	6.3%	79,475	0.2%
香港	3,654	3,817	4.4%	3.3%	36,057	▲5.5%
その他	12,905	15,639	21.2%	13.6%	160,062	7.1%
合計	103,936	114,814	10.5%	100.0%	1,244,878	▲1.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注１：枝肉重量ベース。
注２：計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

（調査情報部　小林　大祐）

E　U

高騰する枝肉価格の影響から、牛肉生産量は増加

24年10月の牛肉生産量、前年同月比5.3%増

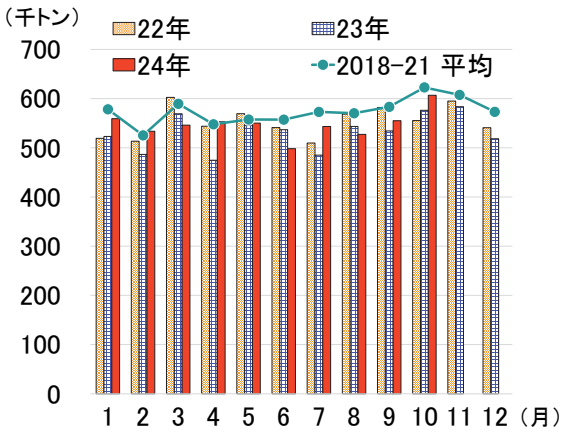
欧州委員会によると、2024年10月の牛と畜頭数が207万1700頭（前年同月比4.3%増）とやや増加したことに伴い、牛肉生産量（EU27カ国）は60万6770トン（同5.3%増）とやや増加した（図１）。また、同年１～10月の累計牛肉生産量は547万1940トン（前年同期比3.6%増）と前年同期をやや上回った。

24年の累計牛肉生産量の増加が最も顕著となったポーランド（同22.6%増）では、EU域内外における牛肉需要と堅調な牛肉

価格を背景に、廃用牛の淘汰（とうた）や近隣諸国からのと畜用生体牛の輸入が増加した。

一方、オランダやアイルランドなどの西欧諸国では、枝肉価格の高騰と環境規制などの厳格化により、と畜頭数が増加する一方、牛の飼養頭数は減少している。このため、25年のEUの牛肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、前年比1.5%の減少と予測している。

図１　牛肉生産量の推移



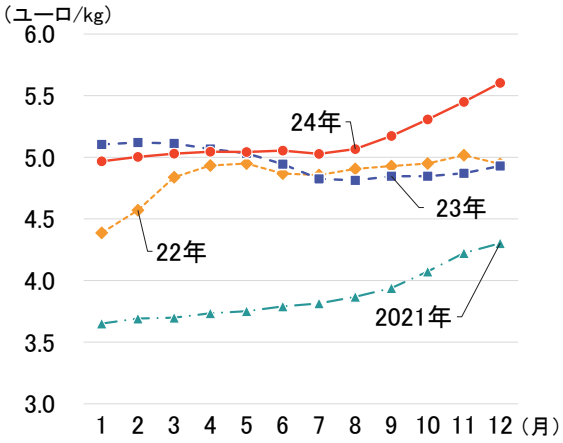
資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：枝肉重量ベース。

24年12月の枝肉卸売価格、前年同月比13.7%高

2024年12月の牛枝肉平均卸売価格（注１）は、１キログラム当たり5.60ユーロ（907円、1ユーロ:161.86円（注2）、前年同月比13.7%高）と過去最高水準になった（図２）。現地報道によると、小売需要が好調であることに加えて、年末に向けて高価格帯の牛肉需要が高まったことなどが牛肉価格の上昇につながったとされている。

（注１）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合が平均的（５段階中３）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

図２　牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」
注：EU参考価格。

24年11月の牛肉輸出量、トルコとアルジェリア向けが大幅増

2024年11月の牛肉輸出量は、４万594トン（前年同月比4.9%減）とやや減少した（表１）。同年１～11月の累計牛肉輸出量は44万2964トン（前年同期比11.8%増）となった。冷蔵牛肉の主要輸出先である英国向けなどは減少したものの、家畜疾病への懸念などから生体牛の輸入を制限しているトルコ（同78.4%増）や国内需要が高まるアルジェリア（同約190倍）向けが輸出量全体を押し上げた。

同年11月の牛肉輸入量は、アルゼンチンの牛肉輸出規制の緩和などにより、２万4195トン（前年同月比13.9%増）とかなり大きく増加した（表２）。

表１　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	23年（1～11月）	24年（1～11月）	前年同期比（増減率）
冷蔵	英国	16,854	13,936	▲17.3%	146,726	137,837	▲6.1%
	トルコ	4,153	5,208	25.4%	38,149	68,044	78.4%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3,431	2,547	▲25.8%	32,814	30,754	▲6.3%
	アルジェリア	141	3,091	2092.2%（約22倍）	141	26,759	18878.0%（約190倍）
	スイス	1,281	1,249	▲2.5%	11,871	14,391	21.2%
	その他	2,949	2,796	▲5.2%	28,304	29,365	3.7%
	合計	28,809	28,827	0.1%	258,005	307,150	19.0%
冷凍	英国	6,358	5,474	▲13.9%	67,590	61,671	▲8.8%
	フィリピン	929	786	▲15.4%	9,892	11,660	17.9%
	カナダ	704	748	6.3%	6,862	6,921	0.9%
	香港	748	359	▲52.0%	5,490	5,012	▲8.7%
	日本	532	263	▲50.6%	4,159	4,962	19.3%
	その他	4,592	4,137	▲9.9%	44,251	45,588	3.0%
	合計	13,863	11,767	▲15.1%	138,244	135,814	▲1.8%
冷蔵・冷凍計		42,672	40,594	▲4.9%	396,249	442,964	11.8%

資料：「Global Trade Atlas」
　注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表２　輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸入先	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	23年（1～11月）	24年（1～11月）	前年同期比（増減率）
冷蔵	英国	6,796	5,099	▲25.0%	55,454	55,779	0.6%
	アルゼンチン	3,518	4,493	27.7%	42,510	43,539	2.4%
	ウルグアイ	1,365	1,351	▲1.0%	20,394	20,522	0.6%
	ブラジル	1,390	2,244	61.4%	14,808	17,053	15.2%
	米国	1,129	1,029	▲8.9%	13,075	11,436	▲12.5%
	その他	1,235	1,186	▲4.0%	12,227	15,789	29.1%
	合計	15,433	15,402	▲0.2%	158,468	164,118	3.6%
冷凍	ブラジル	2,174	3,540	62.8%	38,910	36,598	▲5.9%
	英国	1,731	1,593	▲8.0%	15,052	15,258	1.4%
	ウルグアイ	811	932	14.9%	9,592	11,348	18.3%
	ボツワナ	165	909	450.9%（約5.5倍）	911	5,351	487.4%（約5.9倍）
	アルゼンチン	155	839	441.3%（約5.4倍）	2,771	5,088	83.6%
	その他	769	980	27.4%	7,870	10,340	31.4%
	合計	5,805	8,793	51.5%	75,106	83,983	11.8%
冷蔵・冷凍計		21,238	24,195	13.9%	233,574	248,101	6.2%

資料：「Global Trade Atlas」
　注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

（調査情報部　藤岡　洋太）

豪　州

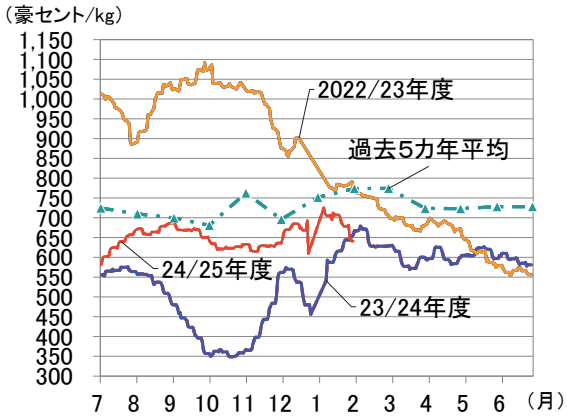
24年の牛肉輸出量は過去最高記録を更新、25年も堅調な輸出量を見込む

25年１月の肉牛価格、旺盛な需要や取引頭数の増加を背景に乱高下

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2025年初めから急騰し、一時、１キログラム当たり700豪セント（685円：１豪ドル＝97.87円(注)）を超えたものの、直近1月30日時点では、同643豪セント（629円）となった（図1）。現地報道によると、１月初旬の急騰は、フィードロット向けの穀物価格が低下し、穀物肥育農家の購買意欲が高まっていること、豪ドル安で推移する為替相場が輸出市場での豪州産牛肉の競争力を高めていることによる強い需要などが要因とされ、下旬の下落は、好調な市場価格を背景とした取引頭数の増加によるものとされている。

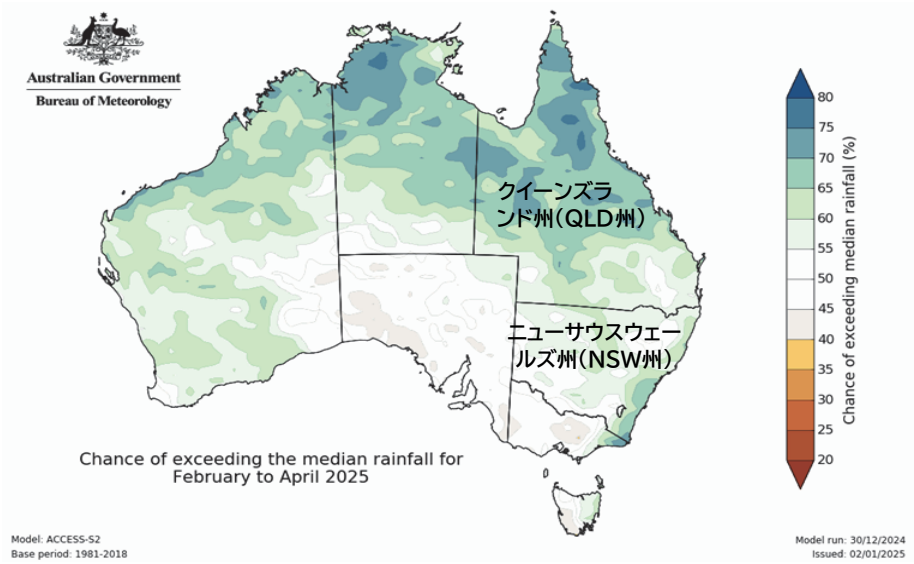
肉牛生産に影響する今後の降雨予想について豪州気象庁（BOM）は、25年２～４月にかけて主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州を中心に平年以上の降雨を予想している（図２）。このため、牧草の確保が容易となることで

図１　EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図２　25年２～４月の豪州における降雨予想図



資料：BOMウェブサイトを基に機構作成

牧草肥育農家からの需要増が想定される。一方、複数の農業系アナリストは、市場に供給される牛の供給量が増えるため、７月まで価格は軟化して推移すると予測している。

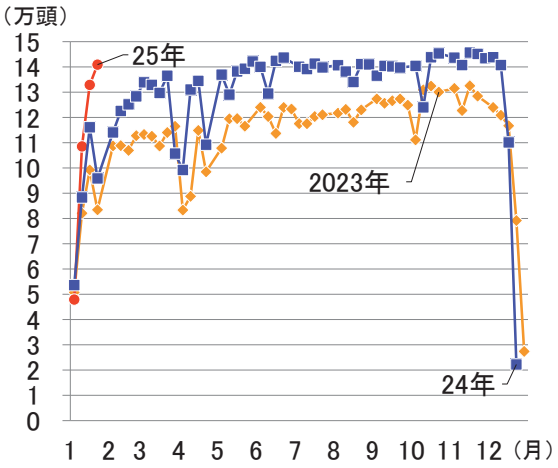
（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

25年１月の成牛と畜頭数、月初から高水準を維持して推移

2025年１月第４週の成牛と畜頭数は、14万908頭（前年同期比47.0%増）と、干ばつによる牛群淘汰（とうた）でと畜頭数が特に多かった20年以来の高水準となった（図３）。

現地報道によると、食肉加工業者は、米国向け加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉用）価格が記録的水準であることなどを背景に、年初取引から牛肉加工代金を引き上げている。今年の食肉加工業者の受け入れ能力は、１週間当たり15万～15万5000頭と予測されており、昨年よりわずかに増加している。一方で業界内では、今年はさらなる豪州産牛肉の生産・輸出増が期待されていることから、この受け入れ能力では不十分との声もあり、労働力の確保は依然として大きな課題と認識されている。

図３　成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注１：成牛のみ（仔牛は含まない）。
注２：年末および３～４月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

24年の牛肉輸出量は過去最高を更新、25年も堅調に推移する見通し

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年12月の牛肉輸出量は、12万7393トン（前年同月比19.4%増）と大幅に増加し、また、24年の累計（１～12月）では134万3568トン（前年比24.1%増）となり、大規模な干ばつにより過去最高となった14年の128万7008トンを更新した（表）。通常、12月は食肉処理施設の営業日が少なく閑散期とされているが、24年12月の牛肉輸出量は年間で３番目の水準を記録しており、輸出記録更新に貢献した。

輸出先別に見ると、米国向けの年間輸出量は、39万4716トン（前年同期比60.4%増）を記録し、24年最大の輸出先となった。これは、米国における牛肉需給のひっ迫に伴う価格上昇を背景に、豪州産牛肉への需要が増していることを示している。また、第２位の日本向けは24万7604トン（同19.7%増）、第３位の韓国向けは20万545トン（同6.2%増）となり、いずれも需給がひっ迫している米国産牛肉の代替として、豪州産牛肉への引き合いの高まりが要因とされている。第４位の中国向けは19万3228トン（同6.3%減）と前年から順位を下げたものの、単月で見ると２カ月連続で前月比を上回るなど、需要に改善の兆しがみられている。

MLAが25年１月29日に発表した「世界の食肉市場に関する最新報告」によると、25年の牛肉輸出見通しとして、（１）生活費の高騰で競争力のある価格帯が求められて

いること、（2）米国産とニュージーランド産牛肉の生産量と輸出量は今後数年間減少が続くと予測され、豪州産牛肉の市場シェア（占有率）拡大の機会があること、（3）豪州の食肉産業は持続可能性に関する目標を掲げ、世界のニーズに応える準備があることから堅調に推移すると分析されている。

表　輸出先国別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年12月	24年12月	前年同月比（増減率）	24年（1～12月）	前年同期比（増減率）
米国	35,782	42,158	17.8%	394,716	60.4%
韓国	15,458	18,496	19.7%	200,545	6.2%
東南アジア	8,752	12,438	42.1%	152,532	30.5%
インドネシア	4,012	5,759	43.5%	84,179	23.1%
中国	18,399	23,860	29.7%	193,228	▲6.3%
日本	19,014	18,082	▲4.9%	247,604	19.7%
中東	2,202	2,863	30.0%	36,631	26.4%
ＥＵ	666	820	23.0%	13,069	52.9%
その他	6,451	8,676	34.5%	105,245	31.5%
輸出量合計	106,724	127,393	19.4%	1,343,568	24.1%

資料：DAFF
注１：船積重量ベース。
注２：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
注３：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

（調査情報部　国際調査グループ）

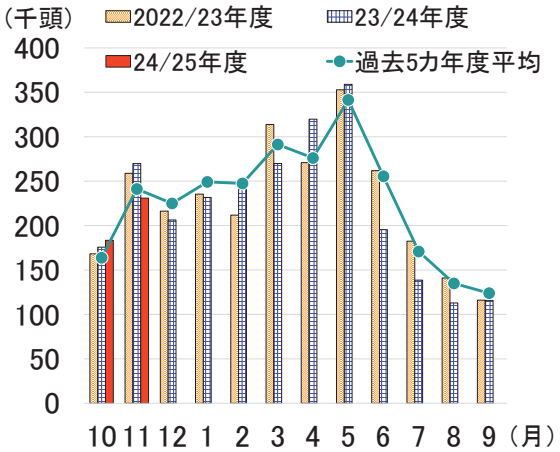
ＮＺ

24/25年度も米国向け牛肉輸出が堅調

24年11月の牛と畜頭数、飼養頭数の減少から前年同月比14.4％減

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年11月の牛と畜頭数は23万909頭（前年同月比14.4％減）と前年同月をかなり大きく下回った（図）。と畜頭数の内訳では、去勢牛が７万810頭（同17.1％減）、未経産牛が６万631頭（同14.3％減）、経産牛が３万4553頭（同17.6％減）、雄牛が６万4915頭（同9.5％減）といずれも減少した。また、24/25年度（10月～翌９月）

図　牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ
注：年度は10月～翌９月。

の開始２カ月（10 ～ 11月）の累計でも、41万4282頭（前年同期比7.0%減）とかなりの程度減少した。この要因として、22/23年度に同国内の一部地域で発生した干ばつの影響から生産者が早期出荷や繁殖雌牛の淘汰（とうた）を進めたことで、飼養頭数が減少し、牛群回復に至っていないことが挙げられる。また、生産者支払乳価が高い水準で推移していることで、酪農部門での保留傾向が強まっていることも影響しているとみられる。

24年12月の牛肉輸出量、前年同月比5.1%減も米国向けは増加

Stats NZによると、2024年12月の牛肉輸出量は５万104トン（前年同月比5.1%減）と前年同月をやや下回った（表１）。輸出先別に見ると、米国向けは２万600トン（同5.7%増）とやや増加した一方で、中国向けは１万5919トン（同24.9%減）と大幅に減少した。中国向けは、同国内でのと畜頭数増加による牛肉需給の緩和から減少した一方、米国向けは同国内の干ばつの影響などから飼養頭数が減少して輸入牛肉への需要が高まっており、今後も加工用を中心に堅調な輸出が続くと見込まれている。

また、日本向けは1920トン（同44.8%減）、2024/25年度10 ～ 12月までの累計でも5228トン（前年同期比31.3%減）と、いずれも大幅に減少している。前年度は豪州産の加工向け牛肉の代替としてニュージーランド産牛肉への引き合いが強かったが、豪州産の生産量が高水準で推移しており日本向け

表１　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名		2023年12月	24年12月	前年同月比（増減率）	24/25年（10月～12月）	前年同期比（増減率）
米国		19,485	20,600	5.7%	41,641	4.0%
	冷蔵	644	1,197	85.9%	2,695	56.8%
	冷凍	18,841	19,403	3.0%	38,946	1.6%
中国		21,193	15,919	▲24.9%	35,592	▲25.9%
	冷蔵	1,017	821	▲19.2%	1,961	▲18.8%
	冷凍	20,177	15,098	▲25.2%	33,631	▲26.2%
カナダ		1,459	3,141	115.3%（約2.2倍）	8,114	89.9%
	冷蔵	64	132	105.9%（約2.1倍）	321	69.1%
	冷凍	1,394	3,008	115.7%（約2.2倍）	7,792	90.8%
日本		3,478	1,920	▲44.8%	5,228	▲31.3%
	冷蔵	702	634.4	▲9.7%	2,114	11.1%
	冷凍	2,776	1,286	▲53.7%	3,113	▲45.5%
韓国		1,616	1,988	23.0%	4,287	19.8%
	冷蔵	－	0	－	0	－
	冷凍	1,616	1,988	23.0%	4,287	19.8%
その他		5,574	6,537	17.3%	19,335	14.1%
	冷蔵	1,386	1,585	14.3%	4,032	9.9%
	冷凍	4,188	4,952	18.2%	15,303	15.2%
合計		52,805	50,104	▲5.1%	114,197	▲5.2%
	冷蔵	3,813	4,369	14.6%	11,124	12.4%
	冷凍	48,992	45,735	▲6.6%	103,072	▲6.8%

資料：Stats NZ
注１：積船積重量ベース。
注２：年度は10月～翌９月

輸出を増やしていることから、ニュージーランド産は減少したと考えられる。

24/25年度の牛肉生産量と輸出量、と畜頭数の減少で前年割れの見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド（BLNZ）が公表した直近の2024/25年度牛肉需給見通しによると、同年度の輸出向け牛と畜頭数は254万頭（前年度比3.3%減）とやや減少が見込まれている（表２）。BLNZはこの要因として、22/23年度に酪農部門において生産者支払乳価の下落や生産コストの高騰から経産牛や未経産牛の淘汰（とうた）が進められたこと、また、干ばつの影響から生産者が早期出荷を進めたことで飼養頭数が減少し、牛群回復に至っていないことを挙げている。これにより、同年度の牛肉生産量は65万1000トン（同3.1％減）、牛肉輸出量も46万4000トン（同2.9％減）と、いずれも前年割れと見込まれている。

表２　輸出向け牛と畜頭数などの見通し

区分	単位	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	前年度比（増減率）
と畜頭数	千頭	2,656	2,677	2,626	2,540	▲3.3%
うち去勢牛	千頭	647	654	662	646	▲2.4%
未経産牛	千頭	515	524	536	492	▲8.2%
雄牛	千頭	529	503	454	451	▲0.7%
経産牛	千頭	965	996	975	951	▲2.5%
生産量	千トン	681	696	672	651	▲3.1%
うち去勢牛	千トン	200	206	206	201	▲2.4%
未経産牛	千トン	126	133	132	121	▲8.3%
雄牛	千トン	159	154	137	136	▲0.7%
経産牛	千トン	195	203	197	193	▲2.0%
１頭当たり枝肉重量	キログラム	256	260	256	256	0.0%
輸出量	千トン	480	496	478	464	▲2.9%
輸出金額	百万ＮＺドル	4,794	4,380	4,242	4,298	1.3%
輸出単価	ＮＺドル/トン	9,987	8,839	8,867	9,269	4.5%

資料：BLNZ
注１：と畜頭数、生産量、１頭当たり枝肉重量の23/24年度は推定値、24/25年度は予測値。
注２：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

（調査情報部　田中　美宇）

豚　肉

カナダ

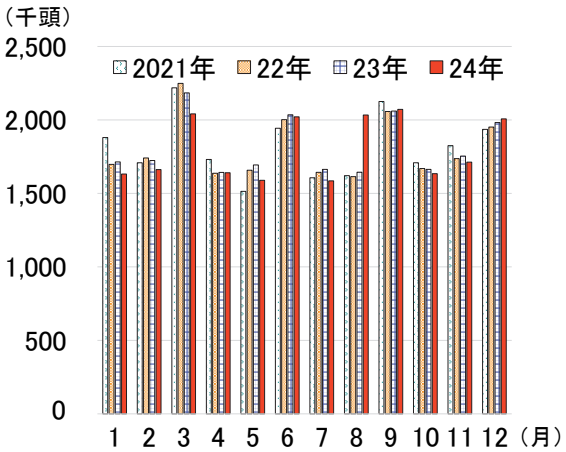
24年の豚肉生産量は前年比1.0％減、輸出量は増加

24年の豚と畜頭数、前年比0.6％減

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2024年12月の豚と畜頭数は200万7000頭（前年同月比1.2％増）とわずかに増加したが、同年の累計（１～12月）では2163万頭（前年比0.6％減）とわずかに減少した（図１）。これは、大手パッカー（食肉処理・加工企業）であるオリメル社の東部ケベック州内の工場閉鎖や、西部アルバータ州内の一部工場で処理頭数の削減が行われたことなどが影響しているとみられる。

24年の豚肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、208万5000トン（前年比1.0％減）とわずかな減少としている。

図１　豚と畜頭数の推移

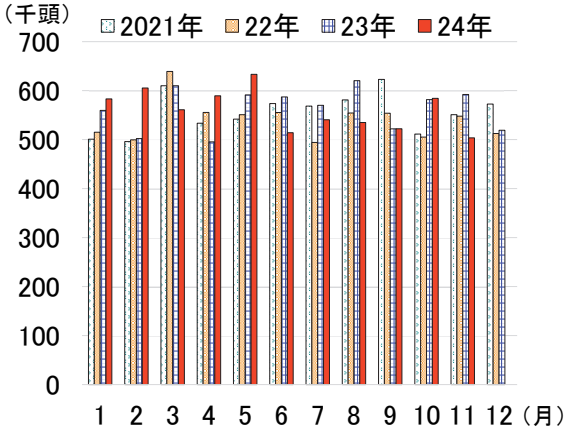


資料：AAFC「Hog Slaughterings at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

24年１～11月の生体豚輸出頭数、前年同期比1.0％減

2024年１～11月の生体豚輸出頭数（米国向け）は、617万頭（前年同期比1.0％減）とわずかに減少した（図２）。23年は国内のと畜処理能力の低下により米国向け生体豚出荷は増加していた中で、母豚頭数の縮小や24年８月以降のと畜頭数の回復などから、輸出頭数は減少に転じた。

図２　米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：カナダ統計局（Statistics Canada）
注：HSコード0103。

24年１～11月の豚肉輸出量、前年同期比9.2％増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2024年11月の豚肉輸出量は８万9900トン（前年同月比6.8％増）とかなりの程度増加し、同年１～11月の累計でも100万6700トン（前年同期比9.2％増）とかなりの程度増加した（表１）。同期を輸出先

別に見ると、米国向けは25万6900トン（同4.6%減）とやや減少した。日本向けは米ドルに比べてカナダドルの為替相場が優位に働いたことから、カナダ産豚肉への需要が高まり、22万9500トン（同56.7%増）と大幅に増加した。メキシコ向けも堅調な需要から14万2800トン（同16.9%増）と大幅に増加した。

豚肉輸入量については、同年11月は11万6000トン（同0.1%減）と前年並みとなり、同年１～11月の累計では国内需要の減少から12万8200トン（前年同期比9.8%減）とかなりの程度減少した（表２）。累計輸入量を輸入先別に見ると、輸入量の約９割を占める米国は10万3900トン（同9.2%減）とかなりの程度減少し、デンマーク（同36.4%減）やドイツ（同28.3%減）といったEU諸国からの輸入も軒並み減少している。一方、ブラジルは主要な買い手である中国向け輸出量が大幅に減少する中で、北米向けの輸出量が増加しており、7900トン（同約2.4倍）と大幅に増加した。

表１　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	シェア	24年（1～11月）	前年同期比（増減率）
米国	25.8	24.0	▲6.9%	26.7%	256.9	▲4.6%
日本	14.2	21.1	48.9%	23.4%	229.5	56.7%
メキシコ	12.6	15.5	23.4%	17.3%	142.8	16.9%
中国	8.8	9.9	13.5%	11.1%	103.1	▲27.0%
フィリピン	6.3	3.1	▲50.5%	3.5%	79.8	▲7.5%
韓国	4.2	4.7	12.6%	5.2%	68.6	53.0%
台湾	3.6	3.3	▲8.9%	3.7%	35.0	▲17.2%
その他	8.7	8.2	▲6.0%	9.1%	91.2	30.8%
合計	84.2	89.9	6.8%	100.0%	1,006.7	9.2%

資料：Statistics Canada
注：HSコード0203。

表２　輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	シェア	24年（1～11月）	前年同期比（増減率）
米国	9.7	10.3	6.6%	88.7%	103.9	▲9.2%
ブラジル	0.8	0.4	▲47.6%	3.4%	7.9	138.4%（約2.4倍）
デンマーク	0.4	0.3	▲30.6%	2.4%	4.7	▲36.4%
ドイツ	0.4	0.2	▲52.9%	1.7%	6.3	▲28.3%
スペイン	0.2	0.1	▲30.4%	1.1%	1.6	▲41.6%
その他	0.2	0.3	62.8%	2.6%	3.8	▲29.0%
合計	11.7	11.6	▲0.1%	100.0%	128.2	▲9.8%

資料：Statistics Canada
注：HSコード0203。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

チ　リ

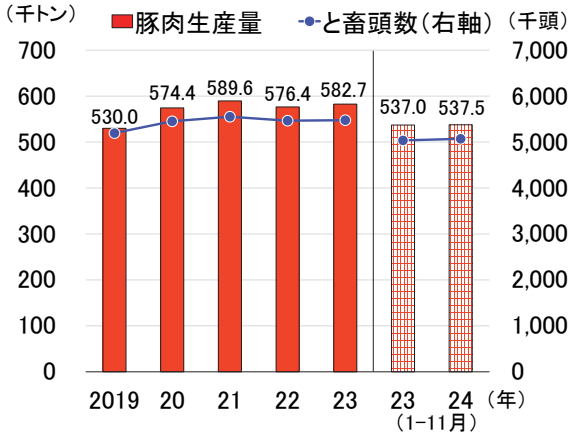
24年１～11月の豚肉輸出量、中国向けが大幅減も全体ではわずかな減少

24年１～11月の豚肉生産量は前年同期並み

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2024年１～11月の豚肉生産量は、53万7500トン（前年同期比0.1％増）と前年同期並みとなった（図１）。また、と畜頭数は、507万頭（同0.7％増）と前年同期をわずかに上回った。

同国の養豚は、飼料の多くを隣国であるアルゼンチンなどからの輸入に依存していることから、その価格動向が豚肉生産に大きく影響している。22年は、飼料穀物価格高などを背景に豚肉生産量は減少したが、23年に入り価格が低下し、24年も低水準で推移したことなどから、豚肉生産量の回復につながったとみられる。

図１　豚肉生産量、豚と畜頭数の推移



資料：ODEPA
注：枝肉重量ベース。

24年１～11月の豚肉輸出量は前年同期比2.4％減

2024年１～11月の豚肉輸出量は、18万2370トン（前年同期比2.4％減）と前年同期をわずかに下回った（表）。最大の輸出先国である中国向けが減少する一方、日本や韓国向けなどが増加したため、全体でわずかな減少にとどまった。

輸出先国別に見ると、中国向けは６万2286トン（同19.8％減）と前年同期を大幅に下回った。これは、中国国内の豚肉需要が弱いことや、冷凍品在庫の積み増しにより輸入豚肉の需要が落ち込んだためである。この結果、輸出量全体に占める中国向け比率は、前年同期（41.6％）から7.4ポイント低下して34.2％となった。また、輸出単価も、中国の需給動向を反映して同10.0％安と前年同期をかなりの程度下回った。一方、これに次ぐ輸出先である日本向けは３万8733トン（同9.4％増）、韓国向けは３万5972トン（同15.4％増）となった。これらに加え、コロンビアやコスタリカなど中南米向けが増加した。

中国向け輸出量が減少する中、チリは24年12月、果実および食肉の輸出に関連した覚書を中国と締結した。これにより、従来の冷凍食肉に加え、冷蔵食肉や冷凍畜産副産物の中国向け輸出が可能となった。チリの業界団体は、今回の覚書の締結により中国市場におけるチリ産食肉の競争力が強化され、高品質食肉の供給元としての地位向上につながるとしている。

表　豚肉輸出の推移

国名	2023年（1～11月）			24年（1～11月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	77,698	134,690	1,734	62,286	97,153	1,560	▲19.8%	▲27.9%	▲10.0%
日本	35,399	142,096	4,014	38,733	164,232	4,240	9.4%	15.6%	5.6%
韓国	31,176	145,313	4,661	35,972	170,508	4,740	15.4%	17.3%	1.7%
コロンビア	10,146	25,750	2,538	11,164	29,578	2,649	10.0%	14.9%	4.4%
コスタリカ	6,939	21,611	3,114	9,847	31,983	3,248	41.9%	48.0%	4.3%
ペルー	6,146	17,368	2,826	3,978	12,490	3,140	▲35.3%	▲28.1%	11.1%
オランダ	3,362	9,613	2,859	3,377	9,773	2,894	0.4%	1.7%	1.2%
その他	16,029	51,350	3,204	17,013	59,508	3,498	6.1%	15.9%	9.2%
合計	186,895	547,792	2,931	182,370	575,226	3,154	▲2.4%	5.0%	7.6%

資料：ODEPA
注１：HSコード0203。
注２：製品重量ベース。

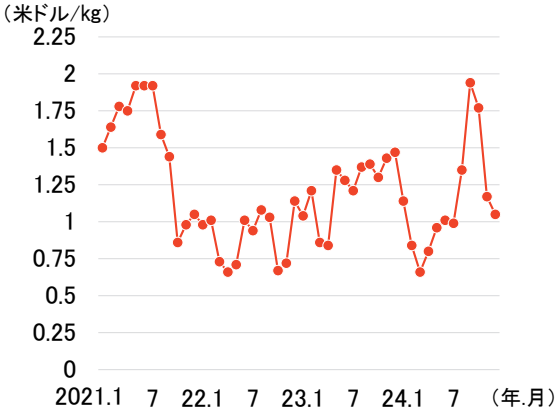
24年の肉豚生産者販売価格は年間を通じて大幅に変動

2024年12月の肉豚生産者販売価格は、前年同月比28.6%安の１キログラム当たり1.05米ドル（163円：１米ドル＝155.43円(注)）と前年同月を大幅に下回った（図２）。

肉豚生産者販売価格の推移を見ると、23年12月から24年３月にかけて11月の価格から半値以下（55.1%安）に急落した。これは、中国向けを中心に輸出需要が低迷したことなどが影響したとみられる。24年４月以降は上昇に転じ、同年９月には同1.94米ドル（同302円）と21年７月以来の高値を記録したが、その後は再び下落に転じるなど、輸出需要の変化などを背景に１年を通じて価格は大きく変動した。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

図２　肉豚生産者販売価格



資料：ODEPA

（調査情報部　井田　俊二）

牛乳・乳製品

米　国

24年12月のチーズ卸売価格、国内外の需要増から前年同月比18.8%高

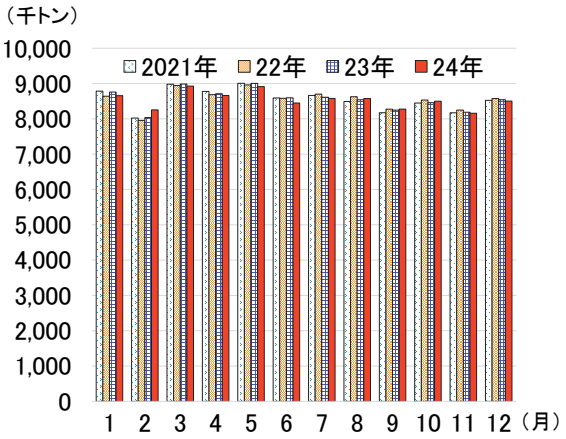
24年12月の生乳生産量は前年同月比0.5%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年12月の乳用経産牛飼養頭数は935万1000頭（前年同月比0.0%増）と前年同月並みになった。また、同月の生乳生産量は850万3000トン（同0.5%減）とわずかに減少した（図１）。これは、最大の生乳生産州であるカリフォルニア州で、乳牛の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）感染の影響により生乳生産量が前年同月から10万6000トン減少したことが要因とみられる。25年の生乳生産量についてUSDAは、前月予測から36万トン引き下げ、１億306万トン（前年比0.6%増）と見込んでいる。

24年12月のチーズの卸売価格は前年同月比18.8%高

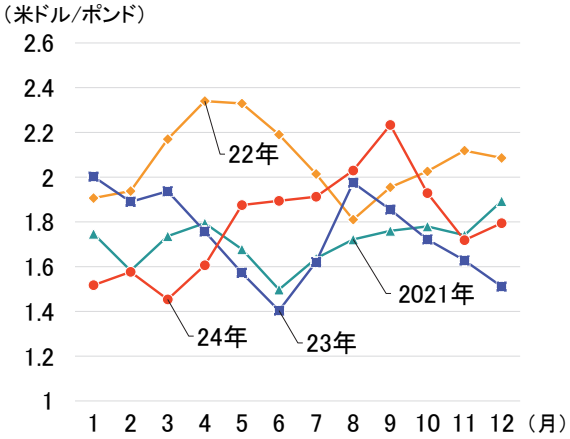
米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2024年12月のチーズ卸売価格は、国内外の堅調な需要から１ポンド当たり1.79米ドル（１キログラム当たり613円：１米ドル＝155.43円(注)、前年同月比18.8%高）と前年同月を大幅に上回った（図２）。年末の休暇時期を迎えた需要の高まりから、同価格は前月比でも4.4%上昇した。消費が好調な中で、同月の月末在庫量は61万5000トン（同6.0%減）とかなりの程度減少し、年末在庫量としては19年以来の低水準となった。ただし、24年末から25年半ばにかけて、カンザス州やテキサス州など複数の地域でチーズ生産施設の

図１　生乳生産量の推移



資料：USDA「Milk Production」

図２　チーズの卸売価格



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（チェダーチーズ、40ポンドブロックのもの）。

稼働が予定されていることで、今後のチーズ生産量の増加が見込まれている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年１月末TTS相場。

24年11月の乳製品輸出量は多くの品目で前年同月を下回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年11月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースで前年同月比15.7%増とかなり大きく増加し、無脂乳固形分ベースでは同12.6%減とかなり大きく減少した。

品目別に見ると、脱脂粉乳、ホエイなど多くの製品で前年同月を下回った（表）。脱脂粉乳は生産減やドル高の影響による価格競争力の低下により、同19.7%減と大幅に減少した。ホエイも同様の理由から中国向けが減少し、同2.2%減となった。一方、チーズはメキシコや中米からの堅調な需要に加えて、欧州産などと比べ安価なことから同2.4%増とわずかに増加した。

25年の乳製品輸出量についてUSDAは、乳脂肪分ベースで前年比0.8%増、無脂乳固形分ベースでは前年並みと見込んでいる。

表　主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

区分	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	24年（1～11月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	67.4	54.1	▲19.7%	695.5	▲6.5%
チーズ	38.6	39.5	2.4%	466.5	17.5%
乳糖	32.2	29.3	▲9.1%	372.7	▲6.4%
ホエイ	14.7	14.4	▲2.2%	167.0	0.8%
WPC	13.8	12.2	▲11.6%	141.4	5.3%
バター	1.5	3.1	100%（約2.1倍）	28.2	4.6%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部　小林　大祐）

E　U

好調な乳製品需要を要因に生産者乳価は高水準を維持

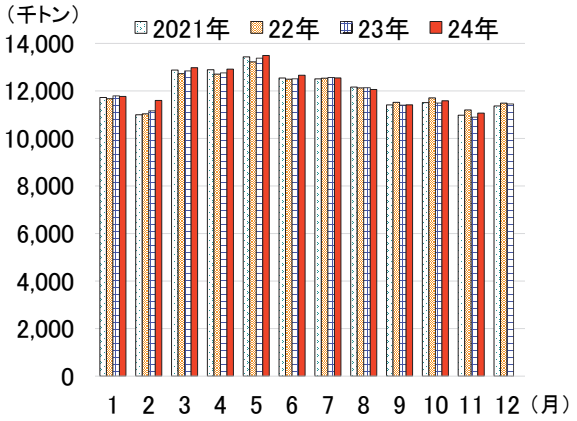
24年11月の生乳出荷量、前年同月比1.6%増

欧州委員会によると、2024年11月の生乳出荷量（EU27カ国）は1106万8000トン（前年同月比1.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図１、表）。主要生産国別に見ると、フランス（同1.8%増）、ポーランド（同3.9%増）、スペイン（同0.9%増）、アイルランド（同33.6%増）が前年同月を上回った一方、ドイツ（同1.9%減）、オランダ（同0.4%減）、イタリア（同1.2%減）は前年同月を下回った。

アイルランドの大幅な生産増の要因は、

前年同月は生乳取引価格が生産費を下回ったことや悪天候による放牧期間の短縮による大幅な生産減があったことに加え、現地報道によると、（１）23年の悪天候による繁殖時期の遅れが生乳生産のピークを24年後半にずれ込ませたこと（２）乳価の上昇と飼料費の低下が乳量の増加を支えたこと（３）乳業メーカーからの増産要求が高まったこと―とされている。一方、ドイツの生産減の要因としては、乳用経産牛飼養頭数がやや減少していることが、同国の１～11月の累計生乳出荷量の減少につながったとされている。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年11月	24年11月	前年同月比（増減率）	24年（１～11月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	2,504	2,457	▲1.9%	29,590	▲0.6%
フランス	1,810	1,843	1.8%	21,787	1.5%
オランダ	1,072	1,067	▲0.4%	12,526	▲1.8%
ポーランド	1,006	1,045	3.9%	12,409	3.9%
イタリア	985	974	▲1.2%	11,912	3.7%
スペイン	576	581	0.9%	6,829	1.6%
アイルランド	393	525	33.6%	8,405	▲1.1%
デンマーク	443	446	0.7%	5,225	0.0%
ベルギー	358	352	▲1.9%	4,258	▲0.4%
その他	1,750	1,778	1.6%	21,146	1.6%
合計	10,898	11,068	1.6%	134,087	0.9%

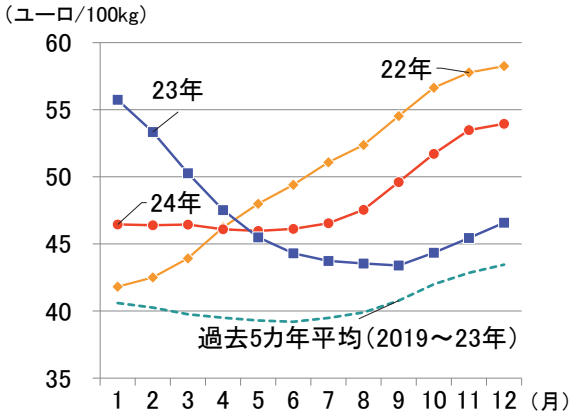
資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注３：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

24年12月の生乳取引価格、前年同月比15.8%高

欧州委員会によると、2024年12月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.95ユーロ（１キログラム当たり87.32円：１ユーロ＝161.86円(注)、前年同月比15.8%高）と７カ月連続で前年同月および前月を上回った（図２）。高値で推移するバターやチーズ価格にけん引されて生乳取引価格は堅調に推移している。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

図２　生乳取引価格の推移



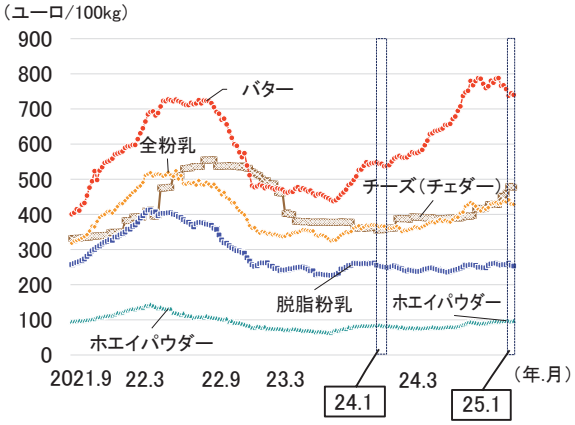
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

25年１月のバター価格、年末需要期が明け、前月からやや下落

欧州委員会によると、2025年１月19日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、脱脂粉乳は100キログラム当たり253ユーロ（１キログラム当たり410円、前年同期比0.3%高）と前年並み、全粉乳は同429ユーロ（同694円、同16.9%高）と前年同期を上回った（図３）。

バターは同740ユーロ（同1198円、同36.1%高）と前年同期を大幅に上回ったものの、前月同期比3.6%安と年末の需要期の価格帯からやや下落した。チーズは同477ユーロ（同772円、前年同期比34.1%高）、前月同期比でも6.5%高となった。域内外からの堅調な需要が、チーズ価格の上昇に寄与している。

図３　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部　渡辺　淳一）

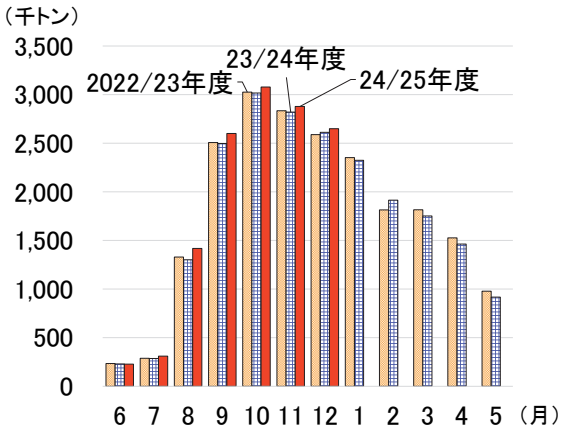
N　Z

生乳生産量６カ月連続で前年同月を上回る

季節的生産ピークを過ぎても生乳生産量は好調を維持

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年12月の生乳生産量は2649万トン（前年同月比1.4%増）とわずかに増加し、６カ月連続で前年同月を上回った（図１）。ニュージーランド証券取引所（NZX）は、季節的な生乳生産のピークを過ぎた後も、同国の主産地を含むほとんどの地域で好調な生産が続いているとしている。一方で、同国

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

の酪農家の間では、乾燥気候による牧草の生育環境悪化が懸念されている。

今後の生乳生産の懸念材料としてNZXは、（１）盛夏を迎えて、牧草の生育環境の悪化が進む可能性（２）ラニーニャ現象が発生した場合、晩夏（注１）は例年より雨が多く風が強い状態が続くことから、干ばつから一転して多雨による放牧地の状態が悪化するおそれ―があることを挙げている。

（注１）ニュージーランドは南半球に位置するため、季節は北半球と逆に12月から２月が夏に当たる。

24年12月の乳製品輸出量、主要４品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年12月の乳製品輸出量は、主要４品目で前年同月を上回った（表、図２）。脱脂粉乳およびバターは中国向けが、全粉乳はマレーシアおよびナイジェリア向けが、チーズは英国および中国向けがいずれも増加した。

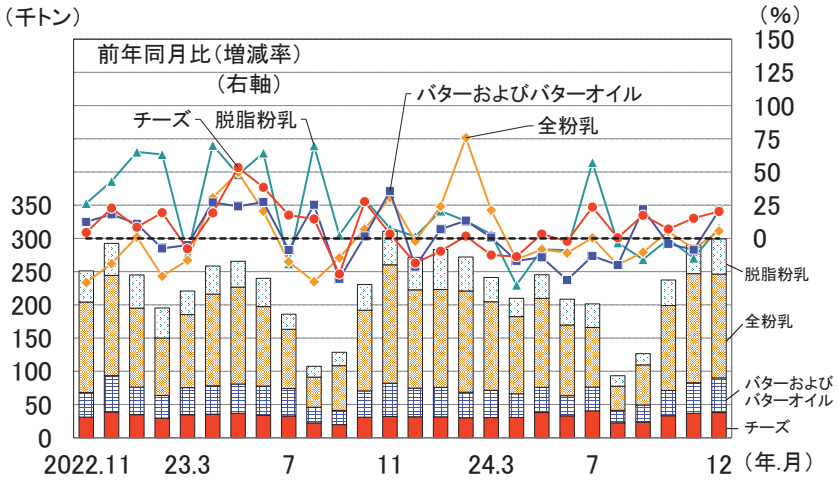
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年12月	24年12月	前年同月比（増減率）
脱脂粉乳	48,870	52,924	8.3%
全粉乳	148,006	156,216	5.5%
バターおよびバターオイル	43,089	52,165	21.1%
チーズ	31,498	37,891	20.3%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。
注３：年度は７月～翌６月。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



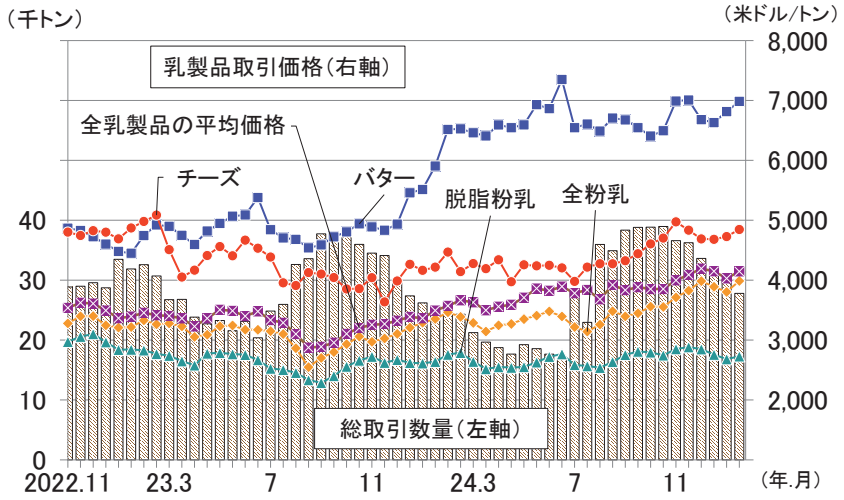
資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

25年１月21日のGDT平均価格、主要４品目で前回開催を上回る

2025年１月21日開催のGDT(注2)平均取引価格は、主要４品目でいずれも前回開催時（25年１月７日）を上回った（図３）。北アジアからの購入が増加したことから、全乳製品の平均取引価格は１トン当たり4146米ドル（64万4413円：１米ドル＝155.43円(注3)、前回比2.9％高）となった。NZXによると、前回開催時よりも欧州の購入量が２倍に増加し、その要因は疾病などの影響によるものと分析されている。また、価格上昇となった脱脂粉乳および全粉乳は、フォンテラ社の粉乳供給量の減少が、今回の価格上昇の要因とされている。

（注２）グローバルデイリートレード。月２回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注３）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

図３　GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部　田中　美宇）

中　国

24年の生乳生産量は７年ぶりに前年を下回る

24年の生乳生産量、前年比2.8％減

中国農業農村部によると、2024年の生乳生産量は前年比2.8％減の4079万トンとなり、７年ぶりに前年を下回った（図１）。

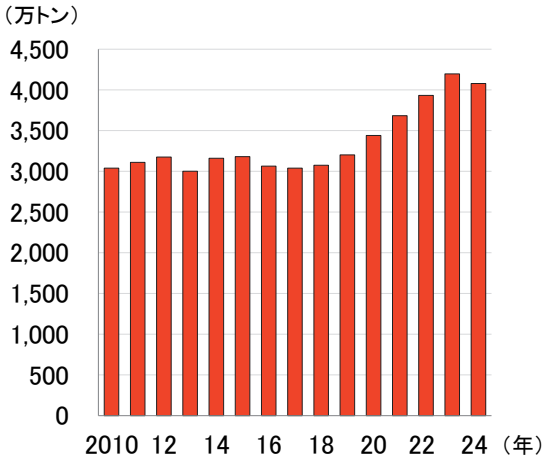
生乳生産量の減少要因について現地報道では、生乳価格の下落を受け、国内生乳生産量の約８割を占める10省・自治区(注1)で乳牛の淘汰（とうた）が進み、飼養頭数が23年末の550万頭から24年第３四半期末（９月末）には513万頭（6.7％減）まで減少したことが影響したとしている。

中国農業農村部は24年４月、24年の生乳等生産量(注2)を前年比2.6％増の4405万トン

とする予測を公表していたが[注3]、同予測を下回ることとなった[注4]。

（注１）内モンゴル自治区、河北省、山西省、遼寧省、黒龍江省、山東省、河南省、陝西省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区。
（注２）牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む生産量。
（注３）海外情報「中国農業展望報告（2024－2033）を発表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003854.html）をご参照ください。
（注４）中国農業展望報告（2024－2033）では、2023年のヤギやヤクなどの他畜種由来の乳量を生乳生産量の2.33%と推定している。24年の同乳量を同様に求めると95万トンとなり、24年の生乳等生産量は4174万トンと推定される。

図１　生乳生産量の推移



資料：中国国家統計局、中国乳業年鑑

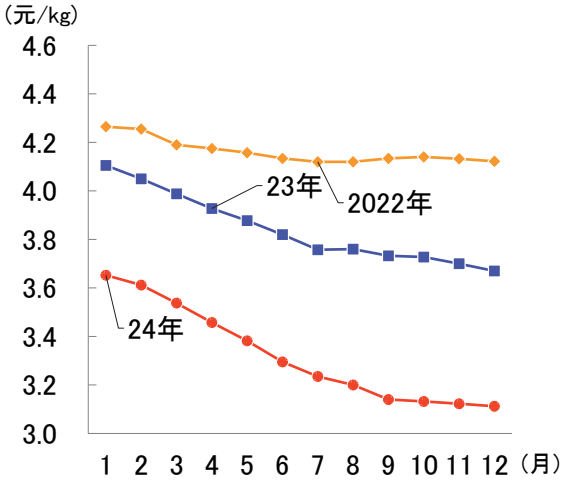
24年12月の生乳価格、前年同月比15.2%安

中国農業農村部によると、2024年12月の生乳価格は１キログラム当たり3.11元（66.74円：１元＝21.46円[注5]、前年同月比15.2%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図２）。一方、直近３カ月は一月当たり0.01元（0.2円）の下落で推移しており、生乳価格の下落幅は縮小している。

（注５）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

生乳価格について中国農業農村部は、25年１月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年12月）」の中で、乳牛の淘汰による生乳生産量の調整効果が現れており、春節（旧正月、25年は１月末）に向けて需要も増えていくことから、今後は回復すると予測している。

図２　生乳価格の推移



資料：中国農業農村部
注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の８割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

24年の乳製品輸入量、バターを除き前年比減

2024年の乳製品主要８品目の輸入量は、主に製パン向け需要が堅調なバターを除き、いずれも前年比で下回った（表１）。

中国にとって最大の乳製品輸入先であり、24年から乳製品の関税が撤廃されたニュージーランド（NZ）からの輸入量（合計）に目を向けると、全体の傾向と同様に輸入量はわずかに減少していたが、輸入量全体に占める割合はやや増加している（表２）。

表１　主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2020年	21年	22年	23年	24年	前年比（増減率）	【参考：輸入額】前年比（増減率）
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	41.0	▲5.0%	▲5.8%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	22.9	▲34.0%	▲38.3%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	41.7	▲24.0%	▲24.9%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	1.6	▲9.7%	▲0.1%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	17.3	▲3.1%	▲5.9%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	10.5	13.2%	22.1%
育児用調製粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	21.6	▲9.3%	▲2.5%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	64.5	▲1.6%	▲5.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年１月１日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

表２　NZからの主な乳製品の品目別輸入量

（単位：万トン）

品目	2023年	輸入量全体に占める割合	24年	前年比（増減率）	輸入量全体に占める割合
全粉乳	38.0	88.0%	36.7	▲3.3%	89.6%
脱脂粉乳	15.7	45.4%	15.7	▲0.4%	68.6%
飲用乳	17.9	32.8%	16.2	▲9.9%	38.8%
ヨーグルト	0.0	0.0%	0.00001	－	0.0%
チーズ	10.7	59.9%	10.3	▲3.6%	59.6%
バター	7.7	83.3%	8.5	9.6%	80.9%
育児用調製粉乳	5.7	24.1%	6.1	5.6%	28.1%
ホエイ	0.6	0.9%	0.6	3.0%	0.9%
合計	96.4	38.4%	94.0	▲2.5%	42.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは表１の注と同じ。

（調査情報部　平山　宗幸）

飼料穀物

世　界

生産減・消費増などから期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年１月10日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1435万トン（前年度比1.3%減）と前月から354万トン下方修正された。このうち、中国やガーナ、ロシアなどは前月から上方修正され、中国では２億9492万トンと292万トン上方修正されて過去最高の更新が見込まれているが、米国の701万トン下方修正がこれを上回った。

輸入量は、世界全体で１億8315万トン（同7.1%減）と前月から77万トン下方修正された。トルコの上方修正があったものの、中国や韓国、日本の下方修正が上回った。また、中国の輸入量については、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国のトウモロコシ輸入量900万トンとは、下方修正後もなお400万トンの乖離（かいり）がある。

消費量は、世界全体で12億3847万トン（同1.7%増）と前月から81万トン上方修正された。ブラジルで前月から200万トン上方修正されたことが寄与した。

輸出量は、世界全体で１億9141万トン（同0.3%減）と前月から163万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国である米国やブラジルの下方修正が影響した。

この結果、期末在庫は米国の下方修正を反映し２億9334万トン（同7.6%減）と前月から310万トン下方修正された。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2025年１月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名		2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度（12月予測）	24/25年度（１月予測）	24/25年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	34.98	34.55	44.72	44.79	29.6%
	生産量	346.74	389.67	384.64	377.63	▲3.1%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲11.1%
	消費量	305.93	321.92	322.98	321.71	▲0.1%
	輸出量	42.22	58.23	62.87	62.23	6.9%
	期末在庫	34.55	44.79	44.15	39.12	▲12.7%
ブラジル						
	期首在庫	3.97	10.04	7.84	8.84	▲12.0%
	生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
	消費量	78.00	85.00	85.50	87.50	2.9%
	輸出量	54.26	39.50	48.00	47.00	19.0%
	期末在庫	10.04	8.84	2.84	2.84	▲67.9%
アルゼンチン						
	期首在庫	4.75	2.32	4.09	4.09	76.3%
	生産量	37.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	14.20	14.25	16.30	16.30	14.4%
	輸出量	25.24	34.00	36.00	36.00	5.9%
	期末在庫	2.32	4.09	2.79	2.79	▲31.8%
ウクライナ						
	期首在庫	7.80	2.80	1.57	1.57	▲43.9%
	生産量	27.00	32.50	26.50	26.50	▲18.5%
	輸入量	0.02	0.01	0.02	0.02	2.0倍
	消費量	4.90	4.25	4.45	4.45	4.7%
	輸出量	27.12	29.49	23.00	23.00	▲22.0%
	期末在庫	2.80	1.57	0.64	0.64	▲59.2%
ＥＵ						
	期首在庫	11.51	8.08	7.25	7.29	▲9.8%
	生産量	52.38	61.87	58.00	58.00	▲6.3%
	輸入量	23.19	19.83	19.50	19.50	▲1.7%
	消費量	74.80	78.10	75.70	75.70	▲3.1%
	輸出量	4.20	4.39	2.50	2.50	▲43.1%
	期末在庫	8.08	7.29	6.55	6.59	▲9.6%
中国						
	期首在庫	209.14	206.04	211.29	211.29	2.5%
	生産量	277.20	288.84	292.00	294.92	2.1%
	輸入量	18.71	23.41	14.00	13.00	▲44.5%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	―
	期末在庫	206.04	211.29	204.27	206.18	▲2.4%
世界計						
	期首在庫	314.05	304.67	316.22	317.46	4.2%
	生産量	1163.38	1230.01	1217.89	1214.35	▲1.3%
	輸入量	173.40	197.14	183.92	183.15	▲7.1%
	消費量	1172.76	1217.22	1237.66	1238.47	1.7%
	輸出量	180.34	192.04	193.04	191.41	▲0.3%
	期末在庫	304.67	317.46	296.44	293.34	▲7.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月/アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。
注２：「ー」は実績のないもの。

（調査情報部　岡田　真希奈）

米国の単収減から大豆生産量は下方修正も、期末在庫は高水準を維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年１月10日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は４億2426万トン（前年度比7.4％増）と前月から288万トン下方修正された。この

表　主要国の大豆需給見通し（2025年１月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名		2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度（12月予測）	24/25年度（１月予測）	24/25年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	7.47	7.19	9.31	9.32	29.6%
	生産量	116.22	113.27	121.42	118.84	4.9%
	輸入量	0.67	0.57	0.41	0.54	▲5.3%
	消費量	60.20	62.24	65.59	65.59	5.4%
	輸出量	53.87	46.13	49.67	49.67	7.7%
	期末在庫	7.19	9.32	12.80	10.34	10.9%
ブラジル						
	期首在庫	27.38	36.82	27.97	27.97	▲24.0%
	生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
	輸入量	0.15	0.87	0.15	0.15	▲82.8%
	消費量	53.41	54.70	54.00	55.00	0.5%
	輸出量	95.50	104.17	105.50	105.50	1.3%
	期末在庫	36.82	27.97	33.52	32.52	16.3%
アルゼンチン						
	期首在庫	23.69	17.00	24.08	24.05	41.5%
	生産量	25.00	48.21	52.00	52.00	7.9%
	輸入量	9.06	7.79	6.00	6.00	▲23.0%
	消費量	30.32	36.58	41.00	41.00	12.1%
	輸出量	4.19	5.11	4.50	4.50	▲11.9%
	期末在庫	17.00	24.05	28.98	28.95	20.4%
中国						
	期首在庫	25.15	32.34	43.31	43.31	33.9%
	生産量	20.28	20.84	20.70	20.65	▲0.9%
	輸入量	104.50	112.00	109.00	109.00	▲2.7%
	消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
	輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	32.34	43.31	46.01	45.96	6.1%
世界計						
	期首在庫	92.90	101.24	112.16	112.38	11.0%
	生産量	378.16	394.97	427.14	424.26	7.4%
	輸入量	168.60	178.08	178.18	179.24	0.7%
	消費量	315.62	331.24	347.42	349.29	5.4%
	輸出量	171.75	177.62	181.97	181.97	2.4%
	期末在庫	101.24	112.38	131.87	128.37	14.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

うち、最大の生産国であるブラジルは１億6900万トン（同10.5%増）と前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は単収の見直し（１エーカー当たり51.7ブッシェルから50.7ブッシェルに下方修正）により１億1884万トン（同4.9%増）と前月から258万トン下方修正されたことが影響した。また、アルゼンチンは5200万トン（同7.9%増）と前月から据え置かれ、中国は2065万トン（同0.9%減）と前月から５万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で１億7924万トン（同0.7%増）と前月から106万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は１億900万トン（前年度比2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億4929万トン（同5.4%増）と前月から187万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は１億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で１億8197万トン（同2.4%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジルは１億550万トン（同1.3%増）、これに次ぐ米国は4967万トン（同7.7%増）といずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は１億2837万トン（同14.2%増）と前月から350万トン下方修正された。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとは引き続き乖離（かいり）がある。中国国内では大豆需給の緩和も見込まれており、世界の期末在庫が高い水準にある中で、同国の輸入動向が注目される。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

米国は総供給量の減少により期末在庫はかなり大きく減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年１月10日、24/25年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、生育初期の十分な降雨と温度が確保できたことにより、作況が良好であったことから収穫面積が上方修正されたが、単収の下方修正から148億6700万ブッシェル（３億7764万トン(注1)、前年度比3.1%減）と前月から下方修正され、前年度をやや下回ると見込まれている。

米国内消費量は、飼料等向けが前月から下方修正されたことから、126億6500万ブッシェル（３億2170万トン、同0.1%減）と下方修正され、前年度並みと見込まれている。

輸出量は、2500万ブッシェル下方修正されたものの米国産トウモロコシの需要増により24億5000万ブッシェル（6223万トン、同6.9%増）と、前年度をかなりの程度上回る高水準とされている。

この結果、期末在庫は15億4000万ブッシェル（3912万トン、同12.6%減）と、総供給量の下方修正により前月から下方修正され、前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末

在庫量）は、10.2%（同1.6ポイント減）と前月から1.2ポイント下方修正され、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり4.25米ドル（661円、１キログラム当たり26.0円：１米ドル＝155.43円（注２）、同6.6%安）と前月から上方修正されたが、引き続き前年度からかなりの程度下落が見込まれている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2025年１月10日米国農務省公表）

区分	ー単位ー	2022/23年度	23/24年度（推計値）	24/25年度			
				（12月予測）	（１月予測）	参考（換算値）	前年度比（増減率）
作付面積	（百万エーカー）	88.2	94.6	90.7	90.6	36.67（百万ヘクタール）	▲4.2%
収穫面積	（百万エーカー）	78.7	86.5	82.7	82.9	33.55（百万ヘクタール）	▲4.2%
単収	（ブッシェル/エーカー）	173.4	177.3	183.1	179.3	11.25（トン/ヘクタール）	1.1%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,377	1,360	1,760	1,763	44.78（百万トン）	29.6%
生産量	（百万ブッシェル）	13,651	15,341	15,143	14,867	377.64（百万トン）	▲3.1%
輸入量	（百万ブッシェル）	39	28	25	25	0.64（百万トン）	▲10.7%
総供給量	（百万ブッシェル）	15,066	16,729	16,928	16,655	423.05（百万トン）	▲0.4%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,044	12,673	12,715	12,665	321.70（百万トン）	▲0.1%
飼料等向け	（百万ブッシェル）	5,486	5,804	5,825	5,775	146.69（百万トン）	▲0.5%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,558	6,869	6,890	6,890	175.01（百万トン）	0.3%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,176	5,478	5,500	5,500	139.71（百万トン）	0.4%
輸出量	（百万ブッシェル）	1,662	2,292	2,475	2,450	62.23（百万トン）	6.9%
総消費量	（百万ブッシェル）	13,706	14,966	15,190	15,115	383.94（百万トン）	1.0%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,360	1,763	1,738	1,540	39.12（百万トン）	▲12.6%
期末在庫率	（%）	9.9	11.8	11.4	10.2		1.6ポイント減
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	6.54	4.55	4.10	4.25	26.0（円/kg）	▲6.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は各年９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。
注３：換算値は端数処理の関係で主要国のトウモロコシの需給見通しの表と一致しない場合がある。

（調査情報部　岡田　真希奈）

中　国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

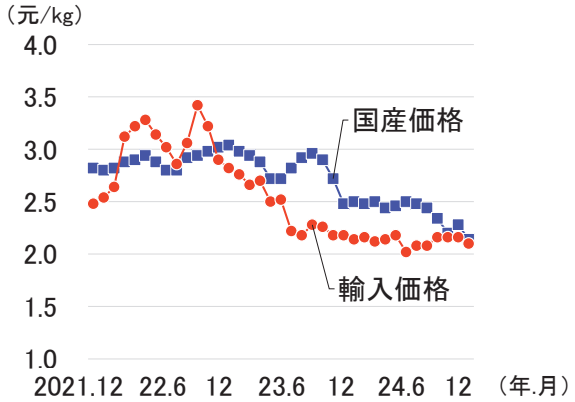
24年12月の国産トウモロコシ価格、前月からかなりの程度下落

中国農業農村部は2025年１月21日、「農産物需給動向分析月報（2024年12月）」を公表した。この中で、24年12月の国産トウモロコシ価格は前月からかなりの程度下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では新穀のトウモロコシ供給が潤沢となる一方、需要面では、市場供給量の増加から飼料企業などは過度な在庫を抱えず、必要量のみを都度購入している状況とされる。こうした中、需給調整のため備蓄用トウモロコシ在庫の増加や輸入トウモロコシの販売停止などの対策が報じられており、これらが下支えとなることで、当面の国産トウモロコシ価格はわずかな変動幅での推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東（かんとん）省黄埔（こうほ）港到着（関税割当数量内：１%の関税＋

25％の追加関税）は、24年12月が１キログラム当たり2.10元（45円：１元＝21.46円(注)、前月比2.8％安）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.14元（46円、前月比6.1％安）とかなりの程度下落したことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.12元（３円）から同0.04元（１円）に縮小した。

図１　トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み２級黄トウモロコシ価格。
注２：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し２級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

24年12月の国産大豆価格、前月同を維持

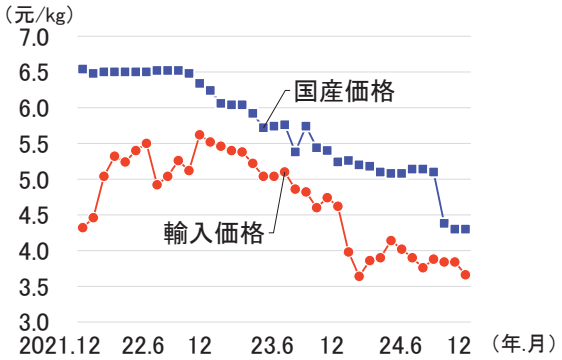
2024年12月の国産大豆価格は、前月同となった（図２）。同月の大豆需給を見ると、供給面では新穀の大豆が出荷される中で、全体的な供給量は十分とされる。需要面では、１月下旬からの春節（旧正月）休暇を控えた末端需要の高まりから、大豆の使用量は増加傾向とされる。しかし、十分な供給量と輸入大豆価格の下落は国産大豆価格の抑制につながっている。ただし、継続した備蓄用大豆の買い入れなどが同価格を下支えしていることから、当面の国産大豆価格は安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江（こくりゅうこう）省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年12月が１キログラム当たり3.80元（82円、前年同月比21.9％安）と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東（さんとう）省の国産大豆価格は、同4.30元（92円、同17.9％安）と前年同月を大幅に下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島（ちんたお）港引き渡し価格、課税後）が同3.66元（79円）となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.46元（10円）から同0.64元（14円）に拡大した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、国際相場安などを背景に前年に比べて高い水準にある。24年（１～11月）の輸入量は9709万トン（前年同期比9.3％増）とかなりの程度増加した。輸入額は穀物価格の下落を受けて同8.3％減の491億2300万米ドル（７兆6352億円：１米ドル＝155.43円(注)）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の73.9％）、米国（同18.4％）、アルゼンチン（同4.0％）である。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年１月末TTS相場。

図２　大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、山東省入荷価格。
注２：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（調査情報部　横田　徹）